

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和元年度 福島県意見交換会（第1回） 議事概要

令和元年6月18日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日時】令和元年6月18日（火）10:00～12:00

【場所】復興庁福島復興局 5階 特別会議室

【出席者】

<会員>（所属の五十音順、敬称略）

株式会社東邦銀行、福島県、国立学校法人福島大学、
一般社団法人ふくしま連携復興センター、復興庁総合政策班、復興庁福島復興局

<オブザーバー>（敬称略）

公益財団法人福島県観光物産交流協会 観光物産館

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 開会の挨拶

復興庁より開会の挨拶を行った。参加団体がそれぞれの活動を理解し合い、また、各出席者が日頃活動する中でさらに活動を広げたいという思いを形にするために、意見交換会の場をぜひ活用してほしい、との旨を述べた。

1.2 参加者自己紹介

各出席者がそれぞれ挨拶を行った。各自の経験に関する紹介と合わせて、ネットワーク構築や復興・地方創生に向けた意見交換・取組を期待する声があった。

2 各団体の取組紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1以降）をもとに取組を紹介した。

3 今年度の意見交換会の説明

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに以下の点を説明した。

- ① 今年度の意見交換会の方向性
- ② 過去の意見交換会
- ③ 今年度の意見交換会の進め方
- ④ 議論のテーマ案

4 意見交換

4.1 今年度の意見交換会の方向性・進め方

方向性・進め方については異論がなかったため、事務局案で決定とした。

4.2 議論のテーマ、実践の場のターゲット検討

昨年度実施の「ふくしまキャリア探求ゼミ」の反省点として、イベントの周知期間が短かったことがあげられた。

また今年度の取組のターゲットとして、年齢層は、就職活動の前段階の高校生や大学1・2年生を対象にすることや30代にする等、様々な意見が出た。情報の発信先は、福島に縁があるが東京に居住する人とするか、福島県内の学生とするかといった意見が出た。

イベントの登壇者は、福島で特色のある仕事をしている人とするか、より身近な仕事をしている人とするかという意見が出た。

さらに、イベントの構成としてメインテーマとサブテーマを設定し、集客の相乗効果を図る意見もあがった。メインテーマに関しては前述のもので、サブテーマに関しては復興支援に対する感謝を表す機会を設ける等の意見があった。

<主なご意見>

1) 議論のテーマ

- ・ 参加者はインターン先を探す学生を想定し、ゲストをインターン先の方々にすれば、幅が広がると考える。
- ・ 情報発信方法について、どのような情報を誰に発信し、実際、誰に来てもらうかがキーポイントだと考える。
- ・ 昨年度の「実践の場」と東邦銀行が開催した「次世代経営者セミナー」では、登壇者が復興をテーマに仕事をしているか、生活の基盤として福島を選んだか、という違いがあるように思う。上手に棲み分けをする必要がある。加えて、コンセプトをいかに伝えるかが重要である。
- ・ 今年度の方向性として、福島の地場産業の人材不足への対応案として、福島に縁があつて戻

ってくる人に注力すべきだと考える。

2) ターゲットについて

- ・十分に周知する期間があれば、昨年度はもっと意味のある会にできたと思う。そのために目的と誰を対象にするかを我々の間で認識を合わせる必要がある。
- ・昨年度福島県が福島へ帰省した人々を対象に同窓会の0次会を開催したが、この取組と関連付けることができると考える。
- ・就職を機に福島へ帰ることを視野に入れている学生は情報過多になっているので、情報の交通整理がポイントだと思う。
- ・学生にも様々な志向を持つ人がいるので、ある程度ターゲットを絞る方がよいと思う。石川氏から話のあった、30歳を対象にした同窓会など対象が明確なので動機付けしやすい。
- ・あまり絞りすぎると対象者が少なくなりすぎてしまうので、さじ加減は必要である。

3) 情報発信の媒体

- ・学生は就職活動に関して情報過多になっているので、もっと前段階の学生に絞る方がよい。
- ・今回は、いずれ就職を考えたときに福島の魅力的な仕事を検討してもらえるようにする認識である。
- ・昨年度のふくしまキャリア探求ゼミへ参加した高校生は、高校のキャリア教育担当者から情報を得ていたので高校や大学のキャリア教育担当者へ情報を提供するの手段である。

4) ターゲットと話し手について

- ・もとの興味や被災経験、復興に関する活動が身近にある学生が地域の担い手になると、リーダー的な立場になることが期待できると考える。ただ福島の人口が増えればよいという問題ではないので、将来的に、就職した学生がどうなってほしいかについても絞る必要があると考える。
- ・リーダー的な立場になりそうな人に絞るという認識でよいか。
- ・普通の学生は企業に就職することを真っ先に考えるが、その中で社会課題の解決に興味のある人が、それを生業とすることを目指すべきだと思う。
- ・被災支援や復興支援の現場を体験した子供たちのうち、成長する過程でお世話になった経験から恩返しをしたいと考える方々に福島を支えてもらいたいと思う。
- ・県内にいる中高生は就職までに一定期間あり、即効性を考慮すると、近くもなく遠くもない将来に就職する層がよい。その場合、県外に出た方を対象にすれば人口減少の問題にも資すると思うので、首都圏や関西圏の人になる。
- ・東京の学生や福島県内にいる人にターゲットを絞らないほうがよいと思う。今年度の取組

結果を踏まえて、来年度のターゲット選定に活かす方法もあると考える。

5) ターゲット地域について

- ・ ターゲットは、絞り込むのではなく別の目的で人を集めればよいと考える。1つの方法論として、今年度の実践の場は、これまでの支援に対する感謝を形にすることを目的に参加者を集め、その中で福島の企業や取組を知ってもらう機会を作れるという考えもある。
- ・ 東京の人をターゲットとした場合、実例を示して待遇等をPRできなければ即効効果はないと考える。福島で高校生等を対象にした場合、魅力的な仕事や人の紹介に徹することができるかと考える。
- ・ 福島で地道に頑張っている人の声を聞く会を、福島県内でやる場合でも、東京で様々な形で情報発信できると考える。
- ・ 福島で生まれ育ち働く人でなく、県外から福島の大学に進学した人をターゲットにすれば面白いのではないかと考える。また福島から東京等の大学へ進学した人へのアプローチも、都内での就職が潜在的に想定される大学へ通う学生をターゲットから外す等の考慮をする必要があるかもしれない。

5 閉会

第2回意見交換会は連携対象団体を招き、企画の具体化を進める。8月下旬～9月頃に開催予定。事務局より別途、日程調整を依頼する。また連携対象団体は別途参加者へ意見を伺いながら調整する。

以上